

CASBEE神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三井アウトレットパーク マリンピア神戸	階数	地上2F
建設地	兵庫県神戸市垂水区海岸通 2169-	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、第二種住居地域	平均居住人員	60,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,飲食店,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年10月 予定	評価の実施日	2024年10月22日
敷地面積	86,591 m ²	作成者	黒木香那
建築面積	27,203 m ²	確認日	2024年10月22日
延床面積	52,302 m ²	確認者	黒木香那



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.9

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
<p>Q-2/1.1.3 バリアフリー計画</p> <p style="text-align: right;">3.0</p>	<p>Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振</p> <p style="text-align: right;">3.0</p> <p>Q-2/2.4 信頼性</p> <p style="text-align: right;">4.4</p>	<p>Q-3/2. まちなみ・景観への配慮</p> <p style="text-align: right;">5.0</p>
<p>配慮の概要</p> <p>バリアフリー新法の移動円滑化基準を満たしている。また、身障者用駐車場を34台設けている。</p>	<p>配慮の概要</p> <p>ブレースを採用し、建物の耐震性向上に配慮した。</p>	<p>配慮の概要</p> <p>白色を基調とした外壁色とし、海岸沿いの建物として風景に馴染む配慮をしている。</p>
その他の配慮事項		
0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
三井アウトレットパーク マリンピア神戸

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築
■評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_1

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.6
Q1 室内環境					0.40		-		3.3
1 音環境				3.4	0.15	-	-		3.4
1.1 室内騒音レベル		室内騒音レベル50dB以下となることを測定値で確認。		4.0	0.40	1.0	-		
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.92	1.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.08	1.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				1.0	-	1.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				1.0	-	1.0	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	1.0	-		
2 温熱環境				2.4	0.35	-	-		2.4
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.50	1.0	-		
2 外皮性能				3.0	0.17	1.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.33	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	1.0	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	1.0	-		
3 光・視環境				3.5	0.25	-	-		3.5
3.1 昼光利用				4.0	0.60	-	-		
1 昼光率				1.0	-	1.0	-		
2 方位別開口				-	-	1.0	-		
3 昼光利用設備		ハイサイドライトを設置。		4.0	1.00	-	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-		
1 昼光制御				1.0	-	1.0	-		
3.3 照度				1.0	-	1.0	-		
3.4 照明制御				3.0	0.40	1.0	-		
4 空気質環境				4.3	0.25	-	-		4.3
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の材料を使用。		5.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.5	0.30	-	-		
1 換気量		建築基準法の1.2倍の換気量としている。		4.0	0.50	1.0	-		
2 自然換気性能				1.0	-	1.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	1.0	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		喫煙室は天井裏まで壁で完全に区画されており、室内は強制機械排気により常時負圧に保たれているため、他への拡散は無い。		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.7
1 機能性				4.0	0.40	-	-		4.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				1.0	-	1.0	-		
2 高度情報通信設備対応				1.0	-	1.0	-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				4.3	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		売り場天井高さ3.5mを確保。		4.0	0.37	1.0	-		
2 リフレッシュスペース		什器を設置し、レストスペースを確保している。		4.0	0.27	-	-		
3 内装計画		デザイナーと照明計画、内装計画同時に計画している。		5.0	0.37	-	-		
1.3 維持管理				5.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		床からH900の高さに防汚性の高い仕上げを採用。		5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		建物の維持管理に必要な諸室を確保。		5.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.5	0.30	-	-		3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.8	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				-	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.25	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		内装仕上げ材の更新期間は15年としている。		4.0	0.13	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ステンレスダクトやガルバリウムダクトを使用している。		5.0	0.13	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にCを使用している。		4.0	0.25	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		更新間隔を20年としている。		4.0	0.25	-	-		
2.4 信頼性				4.4	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		重要性に応じて系統を区分し、災害時には優先的に運転する。		5.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		節水型器具を採用している。		5.0	0.20	-	-		
3 電気設備		非常発電設備を設置している。		4.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスAを採用している。		4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		多様な通信手段を採用している。		4.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高を5.05m確保している。	5.0	0.60	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	1.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	2.0	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造体を傷めることなく更新できるように配慮。	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造体、仕上げを傷めることなく更新できるように配慮。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	構造体、仕上げを傷めることなく更新できるように配慮。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.9
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		景観条例の条例を満たし、植栽により良好な景観を形成している。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域のコミュニティスペースを設置している。	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.20	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用		ハイサイドライトを計画している。	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm]: 0.93	2.3	0.50	-	-	2.3
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	エネルギー消費量の計算に基づき、目標値を建築主に提出してい	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマに加えて擬音などを設置している。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル床タイル、磁器質タイル、長尺塩ビシート	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		軽量鉄骨とボードで構成していて容易に分別可能。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		接着剤や塗料など有害物質を含まない。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、WGP=1の発泡剤を使用している。	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ガス又はばいじんは現行法の排出基準以下としている。	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		風下地域への風の通り道に配慮している。	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車施設、自転車駐車の附置義務台数を満たしている。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ごみの回収ボックスを設置している。	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリスト項目の過半を満たしている。	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	